

THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, Feb. 29th, 1956. No. 288.

關西大學學報

昭和31年2月 第288号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十一年二月二十九日發行（毎月一回三十日發行）
通卷第二八八号



授業を了えて（第一学舎前）

關西大學學報局

近代歌人による萬葉集研究の文献目録 (一)

まえがき

関西大学国文学会は、関西大学創立七十周年記念行事の一環として、昭和三十年十二月一日、千里山第一学舎に於て、「近代歌人による萬葉集研究の文献展示会及び講演会」を開催し、飯田教授の司会により、谷澤助手の文献解説、澤瀉・吉永両教授の講演を行った。この目録は、その記念として作成した。

文献の揭示は単行本に限定し、雑誌・各種講座類・文学史は省略した。文献の選定には松田好夫氏編「萬葉集書目録」及び雑誌「万葉」掲載文献目録に拠るところが多い。

歌人の歌歴は、その流派・系統を示す動向を中心としてまとめた。これには「近代短歌辞典」・「現代日本文学辞典」・「近代日本文学辞典」・「日本文学大辞典」・小泉三博士著「近代短歌史明治篇」を参照した。

参考欄には、その歌人の雑誌論文等を調べ得るような著作目録が作成されている場合はそれを掲げた。次いでその歌人による萬葉集の研究をテーマとした文章が発表されている場合はそれを掲げた。

発行年月を示す昭一八五は昭和十八年五月発行を意味する。

年代順目録においては、二冊以上にわたる書物の場合、その第一冊目だけを掲げた。

この目録は短期間にまとめたため、不備の点が多い。お気付きの点は御教示頂けるようお願いしたい。

第一部 著者別目録

その一 アララギ系

伊藤左千夫

歌歴

明治二十六年伊藤並根に師事し、三十三年正岡子規に入門。長塚節らと共に馬酔木を創刊。四十二年九月より大正二年七月死去する迄アララギの中心的存在であった。歌集・増訂左千夫歌集。

著書
左千夫歌論集卷一 アララギ叢書才42編、斎藤茂吉・土屋文明編 岩波書店昭四9

参考

山本常吉 伊藤左千夫 東京堂昭一六7
斎藤茂吉 伊藤左千夫 (中央公論社昭一七八)
斎藤茂吉全集才34巻 (岩波書店昭二九八) 収録

五味保義 子規・左千夫・茂吉と萬葉集 萬葉集大成2 文献篇 (平凡社昭二八八)

今井 邦子

歌歴

大正五年アララギ会員となつて島木赤彦に師事し、赤彦の死後アララギを脱退、昭和十一年より二十三年七月死去する迄女流歌誌明日香を主宰。歌集・片々・紫草・こぼれ梅。

著書

萬葉集総釈第八 薬浪書院 昭一〇12
(このうち巻十五の全註釈を担当)

萬葉集読本 才一 書房昭一五6

参考

明日香 今井邦子追悼号 昭二三11
古泉 千樞

歌歴

谷 澤 永 一

明治三十二年頃から心の花を読み、三十五年から四十年頃迄萬朝報・日本・比牟呂・鶴川・馬酔木に投稿。三十七年伊藤左千夫に師事し、アララギ創刊号より同人。大正十三年日光創刊より同人となりアララギから離れた。主宰誌青垣の発刊準備中昭和二年八月死去。歌集・屋上の土・青牛集。

著書

随縁抄 改造社昭五3

五味 保義

歌歴

大正九年島木赤彦に師事し十二年アララギ入会、赤彦の死後は土屋文明に師事。昭和二十年九月よりアララギ編集担当。歌集・清峽・島山。

著書

萬葉集作家の系列

斎藤 茂吉

歌歴

明治三十八年竹の里歌を読み、三十九年伊藤左千夫に師事、アララギ創刊より同人。昭和二十八年二月死去。歌集・赤光・あらたま・つゆじも・遠遊・遍歴・としび・たかはら・連山・石泉・白桃・晩紅・寒雲・のぼり路・霜・小園・白き山・つきかげ。

著書

童馬漫語 アララギ叢書才7編

春陽堂大八 斎藤書店昭二三8 全集才14巻

短歌写生の説 アララギ叢書才40編

鉄塔書院昭四4 永言社昭二二10 全集才14巻及び才16巻

新選秀歌百首 改造文庫昭八5 白玉書房昭二四3

全集才37巻

柿本人麿 岩波書店

総論篇 昭九11 全集才26巻

鴨山考補註篇 昭一〇10 全集才31巻

評釈篇卷之上 昭二五 全集才27巻及び才28巻

評釈篇卷之下 昭一四二 全集才29巻及び才30巻

雑纂篇 昭一五二 全集才31巻及び才32巻(予定)

萬葉秀歌 岩波新書版5及び6 岩波書店

上巻下巻共に昭一三二 全集才36巻

沙石 新声閣 昭一六四

童馬山房夜話 八雲書店

才一昭一九七 才二昭一九九 才三昭二二三 才四昭二二一〇

全集才12巻及び才13巻

文学直路 青磁社 昭二〇四

青磁社 昭二二四

萬葉の歌境 アラギ叢書才28編 斎藤書店 昭二二七

童牛漫語 岩波書店

斎藤茂吉全集 岩波書店

第二十一巻歌論八 昭二八八

第三十七巻評釈二 昭二九二

第三十八巻評釈三 昭二九二

第四十一巻雄纂一 昭三〇二

参考

中野重治 斎藤茂吉ノオト 筑摩書房昭一六六

新編昭一八一 通集才7巻

佐藤太郎編 柿本人麿批評集 岩波書店昭一〇五

文学 斎藤茂吉研究 昭二八七

五味保義 子規・左千夫・茂吉と萬葉集 万葉集

大成2 文獻篇(平凡社 昭二八八)

アラギ 斎藤茂吉追悼号 昭二八八

島木 赤彦

歌歴

明治二十八年より日本に投稿、三十六年一月太田

水穂及び森山汀川らと比牟呂創刊、四十二年三月

終刊号を出し、八月アラギと合併。大正十五年

三月死去。歌集・馬鈴薯の花・切火・氷魚・太虚

集・柿蔭集。

(右二冊校訂担当)

歌道小見 アラギ叢書才16編 岩波書店

初版 大・三三 全集才3巻 岩波文庫昭二九二

萬葉集の鑑賞及び其批評 アラギ叢書才21編

岩波書店 大・四二 全集才3巻

赤彦全集第三巻歌論歌話第一 岩波書店昭四二

参考

丸山 静 島木赤彦 八雲書林昭一八八 昭森社昭二三九

北住敏夫 萬葉の諸相 小山書店 昭一七二

五味保義 「萬葉集の鑑賞及び其批評」の前身

アラギ 昭三〇三

高田 浪吉

歌歴

大正五年アラギ入会、島木赤彦に師事。昭和二

十四年川波主宰。歌集・川波・砂浜・堤防・家並。

著書

萬葉集鑑賞 古今書院

卷才一昭八八 卷才二昭九三 卷才三昭九九

土屋 文明

歌歴

明治四十二年伊藤左千夫に師事、以後アラギ同

人。歌集・ふゆくさ・往還集・山谷集・六月風・

小安集・山の間の霧・蕁膏集・山下水・自流泉。

著書

萬葉集年表 岩波書店 昭七四

萬葉集名歌評釈 和歌評釈選集才1巻 非凡閣 昭九二

萬葉集総評第一 築浪書院 昭一〇五

(このうち巻二の全註釈担当)

萬葉集小径 三学書房 昭一六六

旅人と憶良 創元選書91 創元社 昭一七五

萬葉集私見 岩波書店 昭一八七

萬葉集について 学生課叢書才9編 岩波書店昭一八六

(阿部次郎・澤田久幸・花田比路恵・小畑薫良と共著)

萬葉紀行 改造社 昭一八二

萬葉集上野國家私注 煥平堂 昭一九九

続萬葉紀行 養徳社 昭二九

萬葉集私注 筑摩書房

第一巻 昭二四五 第二巻 昭二四九

第三巻 昭二四二 第四巻 昭二五五

第五巻 昭二五〇 第六巻 昭二六三

第七巻 昭二六五 第八巻 昭二六八

第九巻 昭二六九 第十巻 昭二七三

第十一巻 昭二七四 第十二巻 昭二七六

第十三巻 昭二七八 第十四巻 昭二九〇

第十五巻 昭二九二 第十六巻 昭二九四

第十七巻 昭二九六 第十八巻 昭二九八

第十九巻 昭三〇〇 第二十巻 昭三〇二

第二十一巻 昭三〇四 第二十二巻 昭三〇六

第二十三巻 昭三〇八 第二十四巻 昭三一〇

第二十五巻 昭三一二 第二十六巻 昭三一四

第二十七巻 昭三一六 第二十八巻 昭三一八

第二十九巻 昭三二〇 第三十巻 昭三二二

第三十一巻 昭三二四 第三十二巻 昭三二六

第三十三巻 昭三二八 第三十四巻 昭三三〇

第三十五巻 昭三三二 第三十六巻 昭三三四

第三十七巻 昭三三六 第三十八巻 昭三三八

第三十九巻 昭三四〇 第四十巻 昭三四二

第四十一巻 昭三四四 第四十二巻 昭三四六

第四十三巻 昭三四八 第四十四巻 昭三五〇

第四十五巻 昭三五二 第四十六巻 昭三五四

第四十七巻 昭三五六 第四十八巻 昭三五八

第四十九巻 昭三六〇 第五十巻 昭三六二

第五十一巻 昭三六四 第五十二巻 昭三六六

第五十三巻 昭三六八 第五十四巻 昭三七〇

第五十五巻 昭三七二 第五十六巻 昭三七四

第五十七巻 昭三七六 第五十八巻 昭三七八

第五十九巻 昭三八〇 第六十巻 昭三八二

第六十一巻 昭三八四 第六十二巻 昭三八六

堀内草の誘導によって根岸派の歌風を学び明治四

十三年頃からアラギ加入。昭和九年五月死去。

歌集・馬鈴薯の花・林泉集・しがらみ・軽雷集・

軽雷集以後。

著書

中村憲吉全集第二巻 岩波書店 昭一二一〇

橋田 東声

歌歴

明治三十七年頃青年に投書、大正四年赤光を讀ん

で再び作歌を始めた。萬葉集・良寛・子規・左千夫・節らに傾倒。珊瑚礁に参加してその廃刊後大正八年霸王樹を創刊、昭和五年十二月死去する迄主宰。

歌集・地懷。

著書

傑作選萬葉集評釈 成光館出版部 大146

萬葉女流歌人歌集 新釈和歌叢書才13

紅玉社書屋 大148

橋本 徳寿

歌歴

大正十四年古泉千樞に師事、千樞没後その門下と青垣を發行し現在に及ぶ。歌集・船大工・大石集・赤帝集・竹院集・海峽・流域・岑・桃園・ララ

著書

萬葉集私記 墨水書房 昭一九3

花田比露思

歌歴

正岡子規の遺風をしたってアカネ同人となり、のちしほさる及びあけび主宰。歌集・さんげ。

著書

萬葉集私解 紅玉堂書店 昭三9

萬葉集について 学生課叢書才9編 岩波書店 昭一八6
(阿部次郎・澤瀉久孝・土屋文明・小畑薫良と共著)

廣野 三郎

歌歴

大正十六年高田浪吉らと行路発刊。

著書

萬葉集全巻 古今書院大1410初版・昭九9普及版
(藤澤古実と共編)

藤澤 古実

歌歴

大正三年土田耕平を頼って上京、まもなく島木赤

彦に師事、アララギ入会。昭和初年アララギを去り現在国土主宰。歌集・国原。

著書

萬葉集全巻 古今書院 大1410初版 昭九9普及版
(廣野三郎と共編)

藤森 朋夫

歌歴

大正十三年アララギ加入、島木赤彦のち齋藤茂吉に師事。歌集・冬岡。

著書

萬葉集新選 大倉広文堂 昭九2

萬葉集新選 白帝社 昭一六2
(中島光風と共編)

萬葉集總集第四 藥浪書院 昭一〇9
(このうち巻八の全註釈担当)

萬葉集註解 明治書院 年月未詳

新註萬葉集 明治書院 昭二八5

萬葉集 日本古典全書 朝日新聞社

才一分冊 昭二二12 才二分冊 昭二五8
才三分冊 昭二七2 才四分冊 昭二八3
才五分冊 昭三〇5
(佐伯梅友・石井庄司と共同校註)

正岡 子規

歌歴

明治三十一年二月十二日より三月四日にわたって日本新聞に歌よみに与ふる書を掲載して和歌の革新に着手、実作例として百中十首を発表。この時子規の許に集まる香取秀真・岡麓らにより根岸短歌会創立、のち伊藤左千夫・長塚節ら加入。旧派の和歌を革新する為の創作理論として写生を提唱、萬葉集を模範として掲げた。明治三十五年九月死去。遺稿歌集竹の里歌は現在子規歌集として纏められている。

著書

子規隨筆統篇 日本叢書 明三五12吉川弘文館

子規全集第五巻 アルス 大139
参考

愛媛大学国文学研究室編 正岡子規文獻目録

正岡子規 (子規五十年祭協賛会昭二七10) 収録

北住敏夫 萬葉の諸相 小山書店昭一七11

五味保義 子規・左千夫・茂吉と萬葉集 萬葉集

大成2文獻篇 平凡社昭二八8

森田 義郎

歌歴

明治三十三年頃根岸短歌会加入、馬酔木創刊に参加。のち心の花第五巻第一号より第七巻第二号迄編集の一員となつた。

著書

萬葉集私朋 上巻 大日本歌学会 明三六

下巻 ふみかき屋 明三九

萬葉長歌評釈 内外出版協会 明四三8

萬葉短歌評釈 内外出版協会 明四三8

森本 治吉

歌歴

大正九年白路創刊五年間継続。九年アララギ入会。昭和二十一年白路再刊。

著書

作者類別 萬葉集 新潮社 昭七5

年代順 萬葉集 新潮社 昭七5
(澤瀉久孝と共編。のち二分冊として新潮文庫に編入)

萬葉集總集第三 藥浪書院 昭一〇7
(このうち巻五の全註釈担当)

山上憶良・山部赤人 歴代歌人研究第2巻

厚生閣昭一三8 (谷聲と共著)

萬葉に生くる者 古今書院 昭一六3

萬葉集の芸術性 修文館 昭一六4

萬葉集新見 人文書院 昭一六4

萬葉集精粹の鑑賞 講談社 上巻昭一七4下巻昭一八1

高橋蟲麻呂 日本文学者評伝全書 青樹堂昭一七5

萬葉集 現代訳日本古典 小学館 昭一八5

萬葉集大辭典ア行 日本古典全集刊行会昭一八6

(正宗敦夫と共著)

萬葉集の精神と釈義 古典教養の書 旺文社昭一八7

萬葉集のうた 小国民の日本文庫 講談社 昭一八9

入麿の世界 日本文学叢刊 昭泰社 昭一八11

符号本萬葉集上巻 昭泰社 昭一九3

萬葉集 日本文学大成第三巻 地平社 昭二一12

日本詩歌の曙 三省堂出版株式会社 昭二二9

萬葉集第一分冊 日本古典全集 朝日新聞社 昭二二12

(解説を担当)

萬葉集の展開 清流社 昭二四6

別記

斎藤茂吉編 萬葉集研究 岩波書店 上下共に昭一五10

執筆歌人

相沢正 扇畑忠雄 新井深美 伊澤平喜 石黒醇 市毛豊備
上村孫作 落合京太郎 大坪草二郎 大村興樓 鹿兒島壽蔵
加藤潤毅 神田短雄 小松三郎 五味保義 斎藤茂吉 佐藤
佐太郎 佐藤忠恕 柴谷武之祐 柴生田稔 渋谷嘉次 鈴江
幸太郎 竹内六郎 竹尾忠吉 伊達宗雄 田中四郎 土屋文
明 中川正寿 原啓明 樋口賢治 廣野三郎 藤田清 藤森
朋夫 堀内通孝 松井一郎 松井芒人 丸山東一 宮脇武夫
森本治吉 森山汀川 屋敷頼雄 山口茂吉 吉田正俊 岡田
真 岡鹿 丘井比呂彦 小野三好

その二 アララギ系以外

井上 通泰

歌歴

鈴屋派の国富重比古に師事、桂園一技に感服し、
桂園風に從う。明治四十年八月御歌所寄入。昭和
十六年八月死去。歌集・南天莊歌集。

著書

萬葉集新考

私刊本 全三十三巻 歌文珍書保存会 自大四至昭二
公刊本 全八巻 国民図書株式会社 自昭三3至昭四1
第一 昭三3 第二 昭三4
第三 昭三5 第四 昭三7
第五 昭三8 第六 昭三9

第七 昭三10 第八 昭四1

南天莊雜筆

萬葉集雜考 春陽堂 昭五2

萬葉集追攷 明治書院 昭七11

萬葉圖集 井上通泰選井上三綱画 造形芸術社昭一九3

上田英夫

歌歴

水麿同人。歌集・草路集。

著書

改訂萬葉集精選 大倉広文堂 昭九11

宇都野 研

歌歴

大正六年竹柏会入会。九年窪田空穂に師事。九年
三月氏家信らと朝の光創刊。十三年一月国民文学
及び地上と合同して国歌創刊。十四年国歌を解体
して対島完治と白橋を創刊。昭和四年一月白橋を
廃刊し対島と別れて二月雜草創刊。十三年四月死
去。歌集・十姉妹のまへにたちて・木群・春寒抄。

覺書

宇都野研は雜草に死の直前迄、萬葉集口訳を連載
した。これが宇都野研全集に収録されているか否
か未調査。

太田水穂

歌歴

明治二十七年頃より諸誌に詩を投稿、三十二年以
後良寛・萬葉を學び作歌、四十一年以後小説評論
隨筆に傾き、わずかに創作にのみ関係。大正四年
七月潮音を主宰し、アララギに對立。昭和三十年
一月死去。歌集・つゆ草・山上湖上・雲鳥・冬菜
・鶯・螺・螺・流鶯・双飛燕・老蘇の森。

著書

短歌立言

日本和歌史論上代篇 岩波書店 大一〇4

参考 日本和歌史論上代篇 岩波書店 昭二九3

短歌 太田水穂追悼特輯 昭三〇5

尾上 紫舟

歌歴

明治二十八年あさ香社加入。三十五年金子薫園と
共に敝景詩運動を起し明星に對抗。三十八年車前
草社、四十四年第二車前草社を起し、大正三年そ
の後身として水麿を創刊主宰。歌集・敝景詩・銀
鈴・静夜・永日・日記の端より。

著書

萬葉集總釈第九 東洋書院 昭一一2

(このうち巻十八の全註釈担当)

萬葉百首選 好学社 昭二三5

尾上篤二郎

歌歴

窪田空穂のまひる野に敬服、空穂系の紫陽花入
会。明治四十四年破調の歌を主称。大正六年五月
松村英一・西村陽吉と短歌雜誌創刊。八年自然創
刊、まもなく休刊、十五年四月復刊昭和十四年終
刊。現在芸林主宰。歌集・さすらい・明る妙・野
を歩みて・曼珠沙華・草籠・白圭集・平明調・雲
を描く・清明・とふのすがも。

著書

柿本人麿 評註日本名歌選第1編 抒情詩社大五11

旅人他六歌仙 評註日本名歌選第2編 抒情詩社大六1

大伴家持 評註日本名歌選第6編 (年月未詳)

萬葉集物語 東京堂書店大六3 紅玉堂書店 大一一7

山上憶良歌集 新釈和歌叢書第15編 紅玉堂書店 大一一4

田中道麿問本居宣長答萬葉集問答附道麿隨筆

萬葉學叢書第1編 紅玉堂書店 大一一5

田中道麿著撰集萬葉徵 萬葉學叢書第2編

(右二冊並末邦輔と共同校訂)

紅玉堂書店 大一一5

大伴家持・山上憶良 作者別萬葉集評釈全集第4

巻 非凡閣 昭一〇12

作歌道雑誌 人文書院 昭一〇12

大伴家持の研究上 大八洲出版株式会社 昭二三12

折口信夫 ↓ 釈道空を見よ

折口 春洋

歌歴

旧姓藤井。釈道空に師事、のち養嗣子として入籍。昭和二十年死去。歌集・鶴が音。

著書 (署名は藤井春洋)

東歌・大伴集読本 鑑賞短歌大系6 学芸社 昭二8

(北原白秋・折口信夫編・本巻主任藤井春洋)

加藤 順三

歌歳

心の花・帚木同人。昭和二十九年十一月より帚木主宰。歌集・馬酔木。

著書

萬葉美論 教養叢書11 堀書店 昭二三1

金子 元臣

歌歴

明治二十五年創刊歌学会機会誌歌学の幹事をつとめ編集担当。大正四年あけぼの創刊。九年御歌所寄人。昭和十九年二月死去。歌集・金子元臣歌集。

著書

萬葉集評釈 明治書院

第一冊 昭一〇11 第二冊 昭一三6

第三冊 昭一五11 第四冊 昭二〇1

川田 順

歌歴

明治二十九年竹柏園門下の安藤直方に師事、三十二年心の花創刊と共に同人。歌集・伎芸天・山海経・青淵・鶴・立秋・鶯・国初聖蹟歌・史歌大平洋歌・東帰・その他。

著書

萬葉集総釈第五 薬浪書院 昭二一3

(このうち巻九の全註釈担当)

女流歌人 作者別萬葉集評釈全集第7巻

非凡閣 昭二一4

評釈日本歌集 朝日新聞社 昭一六11

窪田 空穂

歌歴

明治三十三年文庫に投稿、與謝野鉄幹に認められ新詩社に参加、明星に短歌及び詩発表。三十年山比古創刊。三十九年十月十月会創立。大正三年五月国民文学が創刊され、以後、地上・榎の木・沃野・菩提樹・短歌草原・国原・朝鳥・やまなみ・鏡葉などが空穂系の雑誌として刊行されている。歌集・まひる野・明暗・黎明・青みゆく空・濁れる川・鳥聲集・泉のほとり・土を眺めて・朴の葉・青水沫・鏡葉・青朽葉・さざれ水・郷愁・冬日ざし・明闇・茜雲・冬木原・卓上の灯。

著書

註解古今名歌新選 博文館 明四五5

萬葉集選 日月社 大四

続萬葉集選 日月社 大四

萬葉集選 越山堂 大六4

萬葉集選 早稲田大学出版部 大二〇頃

萬葉集総釈 薬浪書院 昭一〇9

(このうち巻七の全註釈担当)

柿本人麿 作者別萬葉集評釈全集第2巻

大伴家持・高橋蟲麿 作者別萬葉集評釈全集第5巻

(各巻・部筑省吾との共著、但し序文のみ執筆)

萬葉集 少国民選書 正芽社 昭一七3

柿本人麿 短歌読本 新声閣 昭一七5

防人の歌 少国民選書 正芽社 昭一七12

萬葉集評釈 東京堂

第一巻 昭一八6 第二巻 昭二二12

第三巻 昭二三11 第四巻 昭二四6

第五巻 昭二五7 第六巻 昭二五11

第七巻 昭二五12 第八巻 昭二六3

第九巻 昭二六6 第十巻 昭二六10

第十一巻 昭二七2 第十二巻 昭二七7

古典文学論 創元社 昭二七12

参考

森伊左夫編 窪田空穂先生著作目録 P.L.出版社 昭二七4

短歌 特輯・窪田空穂研究 昭三〇12

小泉 琴三

歌歴

大正二年三月車前草社入会、三年四月水鏡同人。十一年四月ボトナム創刊主宰。歌集・汐潮・くさふち。

著書

評釈大伴家持全集 修文館 大一一5

萬葉集新抄 栗田書店 昭二二4

伍藤信綱

歌歴

相思樹同人。

著書

萬葉集の詩精神と文化 成文堂 昭一八12

児山 信一

歌歴

大正八年頃より創作・アララギ投稿。十年より水鏡に発表。十四年青樹創刊。昭和六年六月死去。

歌集・夜あけの霧。

著書

賀茂真淵著新採百首解本居太平著山常百首

萬葉学叢書第3編 紅玉堂書店 昭二1

(右の校訂解説担当)

新抄萬葉集 立川書店 昭三4

上代歌謡集 水鏡社 昭四8

参考

水梨 児山信一追悼号 昭七5
斎藤 劉 歌歴

明治二十七年日露戦争従軍中佐佐木信綱に師事、
心の花同人。昭和十五年短歌人主宰、戦後復刊。
歌集・曠野・霧華・波瀾。

著書

萬葉名歌鑑賞 人文書院 昭一〇6増補版昭一七5

萬葉のこゝろ 朝日新聞社 昭一七5

防人の歌 東京堂 昭一七6

佐佐木信綱

歌歴

鈴屋系足立弘訓門人佐佐木弘綱の長男。明治二十九年めさまし草に連作第十三章発表。二十九年いささ川発行、三十一年一月終刊。三十一年二月心の花創刊主宰。歌集・思草・遊清吟藻・新月・常盤木・豊旗雲。鶯・椎の木・瀬の音・黎明・山と水と・銀の鞭・秋の声。

著書 (複製本は省略)

萬葉集 日本歌学全書 博文館

上巻明二四10 中巻明二四11 下巻明二四12

歌学論叢 博文館 明四一9

日本歌選第一編上古の巻 博文館 明四二3

萬葉集古写本攷 明四四4増訂版大九6

萬葉集選釈 明治書院 大五12増訂版大五13新訂版昭二八5

評釈ボケツト萬葉集 博文館 大九1

萬葉集新選 明治書院 大一一4増訂版大一一10

校本萬葉集

和綴本二十五冊 校本万葉集刊行会自大一一三至大一一四3

増訂普及版 十冊 岩波書店 自昭六5至昭七5

(橋本進吉・千田憲・武田祐吉・久松潜一と共編)

仙覺全集 萬葉学叢書第8輯 古今書院 大一一7

秘府本萬葉集抄 萬葉学叢書第9輯 古今書院 大一一7

抄釈袖珍萬葉集

昭二1

萬葉漫筆 改造文庫第二部第三十三篇

新訓萬葉集 岩波文庫 岩波書店 改定社 昭二8

上巻昭二9改修版昭一五11 新訂版昭二九9 下巻昭二10

萬葉学叢刊中世篇 萬葉学叢書第10編

古文書院 昭三2

白文萬葉集 岩波文庫 岩波書店 上巻昭五3下巻昭五4

分類萬葉集 岩波書店 昭五9

萬葉集概説 明治書院 昭七11

国文学の文献学的研究 岩波書店 昭一〇7増訂版昭一九8

萬葉集 大日本文庫文学篇

大日本文庫刊行会 上巻昭一〇10下巻昭一一9

萬葉読本 日本評論社 昭一〇・11改訂版昭二四1

博文社 昭二七6

山部赤人・高市黒人・笠金村 作者別萬葉集評釈

全集第3巻 非凡閣 昭一一2

萬葉集総釈第九 楽浪書院 昭一一2

(このうち巻十七の全註釈担当)

萬葉集百話 明治書院 昭一一5

大伴旅人・大伴家持 歴代歌人研究第3巻

厚生閣 昭一四5

定本萬葉集 岩波書店

一 昭一五2 二 昭一七4

三 昭一七12 四 昭一九1

五 昭二三6

(武田祐吉と共編)

萬葉図録文獻篇地理篇 錦文社 昭一五11

(新村出と共編)

萬葉辞典 中央公論社 昭一六8 増訂版有朋堂 昭二〇11

萬葉集の研究 岩波書店

仙覺及び仙覺以前の萬葉集の研究 昭一七2

第二萬葉集古写本の研究 昭一九3

第三萬葉集類歌類攷 昭二一7

萬葉集防人歌の鑑賞 有精堂出版部 昭一七4

(今井福次郎と共著)

山上憶良 短歌読本 新声閣 昭一七4

(以下次号につづく)

(文学部助手)

(12頁より続く)

関係校友会

工専和鸞会 南区河原町二一五〇一 戎 五五三

新制大学院修士会 狹田松博 尼崎市昭和南通八二〇六 尼崎五〇〇

関西甲種商業校友会(大阪市大淀区長柄中通二二関西大学 富田輝雄

第一中学校内)

理事長 三島 律夫 大8

常務理事 西村治三郎 大11 同 長田 義一 昭2

同 古市 実 昭14 同 篠原 昭三 昭20

関大二商同窓会(大阪市北区尾町二〇 長柄金吾 電堀川 一三九八)

会 長 長柄 金吾 一朗

副会長 逢坂 勝見 五期 同 行平百太郎 七期

関大一高同窓会(吹田市垂水一四四関西大学第一高等学校内)

会 長 一部 塚田 正則 昭25 副会長 古川 智 昭26

会 長 一部 江川 吉光 昭24 副会長 佐脇利春 昭24

関大一中同窓会(大阪市大淀区長柄中通二二関西大学第一 中学校内)

会 長 生沢 憲二 昭23 副会長 西川省一 昭23

關西大學七十年史

A5判・約七五〇頁・布ク

ロース装幀・箱入

關西大學創立七十年記念出版物として刊行しますが、刊行部数が僅少でありますので、御入用の方々は予め頒価金壹千円也を添えて御予約下さるようお願いいたします。

關西大學出版部

振替大阪二二八七五番

学 内 報

三笠宮殿下御来学

「日本オリエント学会・
関西イスラム部会」開催

東京女子大学講師で、日本オリエント学会会長の三笠宮殿下には、二月二十一日(火)午後二時より本学千里山第一学舎で開催の「日本オリエント学会・関西イスラム部会」に会長として御出席のため来学された。

殿下には同日午前十一時半本学に御到着、白川理事長、岩崎学長を始め本学役員や各学部長等と御談話の後、学内を御視察になり、特に史学に御造詣深い殿下には史学研究室にて石浜教授らの研究を熱心に御聴取、また末永教授の考古学



出土品等を興味深く御覧になった上、第一会議室の学会に出席された。
日本オリエント学会関西イスラム部会



では、会員二十四名出席、研究発表には本学藤本勝次専任講師の「イスラムの地理学について」など貴重な発表が行われ盛会裡に閉会した。



殿下には午後四時より学会懇親会に臨まれ、爆笑続出のいとも和やかな懇談に時を過され、午後六時半薄暮の千里山をあとに京都へ向われた。

なお、日本オリエント学会関西イスラム部会出席者左の通り。(敬称略、大学名五十音順)

三笠宮殿下(東京女子大学) 田中四郎(大阪外国語大学) 伴康祐(同) 石浜純太郎(関西大学) 高橋盛孝(同) 藤本勝次(同) 山田憲太郎(近畿大学) 羽田明(京都大学) 普波周(同) 加藤一郎(同) 中山正善(天理大学) 諸井慶徳(同) 中村孝志(同) 塩谷敏明(同) 深谷忠政(同) 佐藤栄三郎(同) 黒田親(同) 小名子正義(同) 永尾広海(同) 辻豊彦(同) 生駒藤雄(同) 河合忠信(同) 柴田六郎(大阪大学) 守屋美都雄(同) 岡崎精郎(同)

(9頁より続く)

本万次郎、辻野新一、辻村昌次、土橋四三、土谷正彦代、土屋博、角田文雄、坪田克也、藤田俊夫、鶴沢寅彦、鶴田武、鉄井良男、寺川和正、寺北真都男、寺田作男、寺西武、天正春男、戸根泰雄、富田泰二郎、富永竹夫、額戸勇、名田京一、名取栄史、内藤正剛、内藤哲成、中井弥六、中石清一、中尾善吉、中川庸太郎、中島隆、中田克己、知、中谷政、中谷政男、中務健治、中務平吉、中西幸重、中西与七、中根孫一、中村公男、中村敬次郎、中村源次郎、中村重男、中村定二、中村徳雄、中村敬雄、中村正雄、中山幸市、中本男、中家利国、永石光雄、永田清春、長沢健一、長沢秀行、長田光、長野金吉、鍋島滋治、鈴江城夫、浪江源治、鳴尾芳太郎、仁尾常寿、新居修、新田敏、西尾寿太郎、西川省一、西口雅敏、西家宇平、西沢英明、西野富蔵、西村治三郎、西村正英、西本寛一、西本政五郎、野間秀泉、野間吉幸、野田文一郎、野田博、野間秀泉、信正義雄、納庄清之進、羽間平安、羽間平三郎、長谷川清一、橋爪亮一、堀下辰典、浜野庄作、林信夫、原幸作、原英次、原田麗太郎、春原源太郎、東浦栄一、東山利雄、樋口哲四郎、久井忠雄、久松隆治、平尾登志明、平尾康平、平井功一、平井三郎、平沢隆一、広瀬裕一、広実郁雄、弘末正彦、深川英、福田繁芳、福田順一、福地寿三、福原治郎、藤井健造、藤沢誠一、藤田令介、藤野春三、古市美、古屋東、古林正久、堀正人、星野正身、堀畑一、本多喜俊、前川信之助、前川太良、右門、前坂京成、前田東治、前田孝一、前田常好、牧光雄、孫田茂雄、政井武、松井好一、松尾高、町四郎、松井剛、松井進、松井良雄、松尾鶴一、松下忠由、松浪庄造、松原藤山、松村睦鶴、松本晋代松、松本芳太郎、真鍋竹次郎、三木正之、三島律夫、三宅三郎、三宅茂、三好万次、水本信夫、南清、南正人、宮崎平、宮田輝雄、宮武喜三郎、宮原一、宮本賢郎、牟田口誠、向井裕亮、宗本利市、村尾静明、村上精三、村上良二、村上正明、村瀬昭夫、村山弘、毛利常次郎、望月桂、森崎、森川太郎、森下政一、森下善雄、森田文一郎、森田泰、八木万太郎、八沢良彦、八百村稔、矢口家治、矢口孝次郎、矢島良一、矢野文雄、安井章吾、安富敬作、保井剛一、柳沢重範、山影耕作、山口重治、山口辰雄、山崎敬義、山崎哲英、山田俊治、山田松太郎、山田繁雄、山田安、山田能生、山田豊、山中一夫、山中秀太郎、山根滝蔵、山本勝市、山下益治、山本敬一、山本鎮郎、山本富和、山脇昌、大和英雄、山行平太郎、弓元元一、四辻隆、横田長次郎、横山茂昭、横山正、吉川敬一、吉川直、吉田一郎、吉田奎文、吉田虎雄、吉田三七雄、吉富二郎、吉名功、吉橋輝美、吉村福蔵、米田兼光、勝野徳三郎、和田豊二、渡辺忠男、渡辺道治、渡辺治明、渡辺正人



校 友 バ ヅ ザ

校 友 會 の 活 動

校 友 課

母校関西大学は昨年十一月に創立七十周年の記念式典を挙げ力強い歩みを続け、草創以来卒業生を輩出すること五万余名、法曹界を始め、政界実業界方面其他にも重要な地位を占めて活躍している。

第一回校友会は今を去ること六十年前、明治卅年十二月八日、大阪市北区菅原町「相生楼」で大懇親会をかねて総会を開催したのがそもそもの始めである。

爾來幾星霜を経て、その間盛衰もあつたが、戦後一時校友会活動は物資不足、社会生活の不安等の悪条件に悩まれて停頓、十年間程を空白としたが母校当局よりの絶大な援助により全国校友に呼びかけ再建されたものである。

現在校友会はその本部を関西大学天六学舎におき、支部は全国都道府県市に五十七支部、また職域、同期会はその数百十を算え、母校を中心とした多くの団体は同窓意識を紐帯として強い結合を以て相寄り相扶けて和親協力の実を挙げている。

本部組織は、校友総会に於て選挙された会長、常議員会で推薦された副会長三氏を樞幹として三十名の常議員及び四百七十九名の代議員の人達で形成されている。

昭和廿八年にはB五判五百頁の校友名簿が刊行され、校友会旗及び会員章（バッジ）の制定をみた。校友総会を毎年開

催する。

本年度より計画の事業は大体常議員会で決議された事業部の活躍で一大飛躍が予想されるが今後の活潑な運営について

は、大要次の様な常議員分掌規程を定めて分担し、校友会活動の円滑と拡大を期することとなつた。即ち総務部、事業部、広報部、組織部、財務部の五部門をつくり、会長は其の各部の企画運営を統括調整するため連絡協議会を開く、そして又会務全般の事務を処理するために校友会事務局を設ける。

校友会今後の活動は先ず事業部の行う校友会館建設を筆頭に、學術講演会、実務講習会其他諸集會開催、校友の身上相談、会員の慶弔について御世話すること、在学生の就職指導、文化部並びに体育部OBとの連絡、其他母校の発展に寄与する事業を行う。

広報部では機関新聞「関大」の発行並に一般校友活動に対する普及宣伝等。組織部では支部、職域会、同期会等の組織、機構の拡充強化をはかる。総務部では校友の動態その他各種の資料収集、調査統計につき、又総会、代議員会、常議員会、連絡協議会及び各種委員会開催等を担当する。

但しその活動に資金の必要は論をまたない、その源泉は入会金であり年会費である。これら会費の納入成績の如何によつて運営の成否が決する。納入された会費の使途は、五万校友への通信費、校友大会費、学報代、新聞発行費等に支出される。

古い校友は云はずもがな、近く卒業さ

れる学生諸氏は特に此の事情を充分御覧の上、校友会々則に従い、卒業式直後行ふ校友入会式迄に入会金及び会費の納付を御願して本会の目的遂行に協力せられる様衷心より期待して已まない。

（校友課長 安井章吾）

校友会役員

会 長 岩崎 卯一（関西大学学長）

副会長 大月 伸（弁護士）

同 大石雄一郎（大石紙工社長）

同 長柄金吾（計理士・税理士）

常議員（三十名）（五十音順）

阿部甚吉、梅原貞次郎、大石雄一郎、大島昭、大島武夫、大月伸、樫本信雄、門上敏夫、金本朝一、神屋敷民藏、寒川喜一、木村吾郎、佐伯五郎、高橋節治、寺西武、戸根泰雄、中谷敬寿、中谷政男、中務平吉、長柄金吾、西村治三郎、久井忠雄、古市実、前川太良右門、前田軍治、三島律夫、宮崎平、矢野文雄、山崎敬義、山崎哲英。

代議員（四七九名）（五十音順）

昭和三十年十一月三日（改選）

阿久根幸吉、阿部甚吉、赤松政雄、秋田友三郎、秋山剛、浅田喜重郎、芦田定男、東正澄、東真嗣、天井作次、荒賀勝平、荒川虎一郎、井上勇、井上健二、井上竜男、井上友一、井上伸治、井元弘平、伊藤秀一、伊東太平、猪俣猛、飯田正一、池内幾久、池田佐太郎、池田重吉、池田信之助、池田昌明、池谷龜太郎、池見哲、石川栄一、石川昇、石黒宏昭、石塚俊次、石原孫市、石丸豊、磯野充實、市川信、一瀬泰男、泉正雄、稲垣安吉、福野治兵衛、今井司、今井憲夫、今井崎、今井康兼、今西貞夫、岩城富子、岩岸巖、岩崎卯一、岩田雅保、岩本公夫、鶴岡金次郎、上田昭三、上田武雄、上西榮夫、上野勝也、上野俊彦、上山喜

雄、内田義信、植野郁太、梅原貞次郎、浦本哲彦、瓜生信夫、江村至身、江里口春志、衛藤兵衛、榎原武雄、小川成雄、小川房雄、尾崎信夫、越智比古市、逢坂勝男、大井亨、大石雄一郎、大國正己、大島真二、大島昭、大島治郎一、大島武夫、大島訓将、大月伸、大蔵定司、大森俊次、太田祝次郎、岡内潤一、岡田浅次郎、岡田実之、岡野衛士、岡本顯潤、岡本融治、岡本重治、置田徳次郎、奥沢澄、奥村孝、織田佐代治、加来秀介、加古敬次郎、加藤博司、加藤昌秀、柿木弘、笠置三三、櫻田磯次、櫻本信雄、片岡勝、鍵尾豪雄、片野純一、片山元藏、桂忠雄、門上敏夫、金本朝一、鎌田嘉之、神崎次郎、神屋敷民藏、神宅賀寿恵、神吉等、唐崎専弥、神井幸太郎、川上敬逸、川喜多寛一郎、川田実、川西元治、河合衛一、河内兼三、河村宜介、寒川喜一、木下定次、木下清一郎、木島倫三、木藤安之、木原繁実、木村健助、木村吾郎、木山晴夫、喜島秀太郎、城戸盛雄、鬼頭光哉、菊池清、岸田駒太郎、岸本忠雄、岸本芳夫、北川欽一、北野勝、北之坊孝治、北原元茂、北村専一、北村徳太郎、北村弥市郎、北元正勝、清原俊之助、園田栄一、鞍内国二、黒井肇、桑原義隆、小久保実、小島竜太郎、小寺小市郎、小林巖、小林三郎、小林正美、小堀欣二、小山平治、後藤正身、後藤文彦、郡崇作、園分吉広、近藤公男、雄古貞雄、左海伊和、佐伯五郎、佐伯三郎、佐伯博臣、佐々木重之助、斎藤幸昌、坂部正武、坂本竜夫、坂本幸夫、酒井彦一、桜田晋、里見復二、沢義夫、沢田金三郎、沢村昭三、沢山政雄、堀川真太郎、堀見敬一郎、篠原昭三、篠原公生、渋谷喜章、渋谷正俊、島村保穂、下条小野右衛門、霜村盛郎、白井種雄、白井正実、城尾一男、城島昭、神保敏男、新治長雄、新谷正己、新谷幹夫、須佐美八藏、鈴木末広、鈴木武夫、角田好次郎、瀬尾永治、瀬島永治、関豊男、関矢貴一郎、曾我祐美、滝井義男、田中一郎、田中吉次郎、田中章二、田中藤作、田中壽雄、田中久雄、田中松太郎、田中久、田中由次郎、多賀谷宏、伊達重雄、高井真治、高橋善一、高田明、高橋節治、高橋直人、高橋盛孝、高見三郎、高橋正次、滝利幸、竹内猛、竹沢喜代治、竹下百馬、竹中多賀三、武田蔵之助、殿野貞一郎、棚野誠幸、谷口宗一、谷口隆佳、谷口吉信、谷山守節、渡数男、千歳克郎、津田弘、國師親徳、塚田正則、塚

關西大學校友會支部

大阪支部 (大阪府大東區長柄中通一 關西大學内)
電話堀川一七五・六三三三・一〇七二・一〇七三

支部長 中務 平吉 推 薦 弁護士

(副) 大月 伸 大6專 法 弁護士

(同) 大石雄一郎 大15專 商 大石紙工業K社長

(同) 榎本 信雄 昭3大 法 弁護士

福島支部 (大阪府福島區今開町一の三一 山田俊治方)
電此花 六四五

支部長 山田 俊治 大4專 商 裁判所調停委員

(副) 島田 大八 昭12大 法 弁護士

(同) 羽間平三郎 大6大 法 土地區劃整理委員

阿倍野支部 (大阪府阿倍野區阿倍野筋六の三 江村至身方)
電天下茶屋 五二五

支部長 江村 至身 大12專 法 税理士、計理士

(副) 鈴木 武夫 昭5大 法 弁護士

(同) 小島電太郎 昭9大 法 小島商事K社長

住吉支部 (大阪府住吉區常塚山三の二六 真鍋竹治郎方)
電住吉 二六五七

支部長 真鍋竹治郎 大15專 法 K大阪精錫所社長

東住吉支部 (大阪府東住吉區田辺本町一の三七 関矢貴一郎方)

支部長 関矢貴一郎 昭13大 政

(副) 深井 敏雄 昭15專 一經 K大阪通信社取締役

(同) 小泉 博之 昭20專 一營 曉食品工業K取締役

西成支部 (大阪府西成區橋通一〇七 今井司方)
電天下茶屋 三九六

支部長 今井 司 昭5大 法 計理士、税理士

(副) 田中 俊一 昭6大 法 朝日生命大阪南支社內務副

(同) 山田 信夫 昭11大 商 旭屋書房取締役

旭支部 (大阪府旭區千林町三の九〇 寺西武方)
電城東 四五六三

支部長 寺西 武 昭24大 法 大阪市會議員

名譽 高井 真治 昭45專 商 K関西綿帶營業部長

支部長 守口支部 (守口市浜町一の五八 守口東御坊内)

支部長 本多 喜慶 昭9大 法 守口東御坊住職

(副) 大川原与一 昭9專 經 医学広告取扱業

(同) 柏原 俊孝 昭16專 一經 鋼材販賣業

幹事長 左海 伊和 昭9大 法 さかい印刷所代表

堺支部 (堺市大町東四の二四 中村源次郎方) 電堺 五五三

支部長 中村源次郎 大9專 法 弁護士

(副) 堀畑 町一 昭6大 法 堀畑富子K社長

(同) 井上專一郎 昭2專 法 大阪市制被服共同組合理事長

岸和田支部 (岸和田市五軒屋西万寺 西田亮哉方)
電岸和田 一〇四七

支部長 辻野 新一 推 薦 弁護士

(副) 伊藤 増一 昭8專 法 弁護士

(同) 森田 森 昭15大 法 計理士、税理士

幹事長 岸田 久馬 昭4專 法 柏原パイ製造K

業務部長

布施支部 (布施市永和一〇四 布施市教育委員會社會教育課内)

支部長 塚本方次郎 大4專 法 小坂信用金庫理事長

(副) 広美 郁雄 大13專 法 計理士、税理士

(同) 森 喬 大15大 法 弁護士

豐中支部 (豐中市岡町四の二 安富敬作方) 電豐中 三八〇一

支部長 安富 敬作 昭7大 政 弁護士

(副) 榎原 武雄 昭18大 法 豐中市會議員

池田支部 (池田市根木町一九六 尾庭元一方) 電池田 一〇三六

支部長 尾庭 元一 大6專 法 弁護士

(副) 津田 彦信 大9專 法 弁護士

(同) 岡村 永卓 昭7大 英 池田市 壽命寺

高槻支部 (高槻市新京町一九の八 脇野德三郎方)

支部長 脇野德三郎 大15大 商 関西電力本社庶務部次長

(副) 吉川 敬一 昭6大 法 田村駒K

(同) 星田 九一 大13專 法 精華印刷所

泉佐野支部 (泉佐野市上瓦屋七六六 松庄造方)

支部長 松浪 庄造 昭8專 法 泉佐野市會議員

(副) 藤田 春雄 昭9專 一經 南海電鉄K事業部

(同) 入江 勇 昭5大 經 泉佐野商工會議所專務理事

貝塚支部 (貝塚市脇浜五三北村專一方) 電貝塚 五一二

支部長 北村 專一 昭7專 英 貝塚市會議員

(副) 菅原 正治 昭2大 法 貝塚市公會堂主事

(同) 泉谷 与一 昭4大 經 山大證券貝塚所長

北河内支部 (豐川市豐野住宅 荒川虎一郎方)

支部長 荒川虎一郎 昭8大 法 大阪新報新聞編集長

尼崎支部 (尼崎市神田中通九の二九三 松尾高一方)

支部長 松尾 高一 昭2專 經 尼崎信用金庫理事長

(副) 須佐美八藏 昭5專 法 スサミ牧場主

(同) 西村治三郎 昭14專 商 大同通運專務取締役

(同) 山野田重治 昭2專 法 尼崎製鉄K社長

西宮支部 (西宮市六湛寺町六七 雜古貞雄方) 電西宮 一二七

支部長 雜古 貞雄 大10專 法 弁護士

(副) 梶川多三郎 大7專 商 兵庫県住宅土地協同組合

事務部長

芦屋支部 (芦屋市松ノ内町一〇〇 田辺田治郎方)

支部長 田辺田治郎 昭13大 商 計理士、税理士

理事 竹谷 裕至 昭7專 法 タケヤ商事K取締役社長

川辺支部 (伊丹市行基田 磯野亮方)

支部長 深川 実 大13專 法 弁護士、大阪學園理事長

川西支部 (川西市出在家北垣内一 滝井義男方) 電西宮 一五八

支部長 滝井 義男 大15專 法 滝井合名會社

(副) 玄野 貞吉 大13大 經 京都鐵道公安室長

(同) 松崎 友一 大6專 法 電氣格接業

(同) 福竹 益雄 昭24大 法 大阪府商工部

宝塚支部 (宝塚市御殿山三四 谷口隆佳方) 電宝塚 三七六

支部長 岡野 衛士 大11專 法 大阪証券取引所理事長

(副) 谷口 隆佳 大15大 法 京阪神鐵道K取締役次長

(同) 富川竹治郎 大15專 法 大阪市住宅管理課長

(同) 杉本 信雄 昭8大 哲 光門寺住職

神戸支部 (神戸市生田區多聞通一〇二四 山崎敬義方)

支部長 山崎 敬義 大14大 法 日本公証人連合會監事

(副) 向井 裕亮 昭10大 法 神港建設K取締役社長

(同) 星野 正身 昭5專 法 兵庫県商業貿易課長

(同) 水本 信夫 大7專 法 弁護士

明石支部 (明石市相生町一の二六 片山元藏方) 電明石 三〇八

支部長 片山 元藏 大11專 法 弁護士

(副) 尾島登龍雄 大3專 法 眼鏡万年筆商
姫路支部 (姫路市西新町一三七) 田中吉次郎方 電姫路 七六

支部長 田中吉次郎 大14專 商 金物卸商

(副) 滝 利幸 昭10專 法 姫路食品製造K社長

(同) 吉松須賀根 昭4大 経 播磨造船所安全監理室事務課長

但馬支部 (兵庫県美方郡浜坂町駅前) 米田兼光方 電浜坂 四九

支部長 米田 兼光 昭15大 商 旅館業

京都支部 (京都市中京区富小路西入 中野二夫方) 電上局二〇七四

支部長 西野 富藏 昭6大 法 京都市會議員

幹事長 荒賀 勝平 大6專 法 弁護士

滋賀支部 (滋賀県蒲生郡八幡町魚屋町上二番 富尾一郎方) 電近江八幡 一七三

支部長 信正 義雄 大11專 法 弁護士

(副) 上田 武雄 大11專 法 公証人

(同) 上田 啓次 推 薦 公証人

奈良支部 (奈良市水門町戒壇院前 吉田孝雄方) 電奈良五五六八

支部長 高松 正次 推 薦 奈良市長

和歌山支部 (和歌山市十二番十八 宮嘉藤業内) 電和歌山一〇三三

支部長 高垣 善一 昭10大 法 和歌山市長

(副) 正田 義春 昭10大 法 和歌山ライトモーターK

北海道支部 (札幌市大通西十二丁目 中田克巳知方) 電札幌三〇三

支部長 中田克巳知 推 薦 弁護士

東京支部 (東京都中央区日本橋本町三丁目 太平ビル内) 電茅場町 九七一九

支部長 中山 幸市 大13專 商 太平住宅KK社長

(副) 瀬尾 永治 大15專 経 三美工業建設社長

(同) 田中 壽藏 昭9大 経 日本化繊検査協会総務部長

富山支部 (魚津市下新町二五 安田倫成方) 電魚津 一三三七

支部長 古屋 東 明45專 法 弁護士

(副) 粟山 基一 大3專 法 富山司法事務局長

(同) 宮本 五郎 大12專 法 黒部市會議員

石川支部 (金沢市小將町中一〇三 中西与七方) 電石川 一〇四二

支部長 中西 与七 明42專 法

(副) 小間井与一 昭16專 法 松屋社長

福井支部 (福井市大和中町四六 中部建設K福井支店内) 山口俊雄方 電福井三三三九・四〇五九

支部長 内藤 哲心 大10專 法 弁護士

(副) 小寺 藤作 昭2大 法 機業
名古屋支部 (名古屋市中区布池町三二 中根孫一方) 電名古屋九局 一三六二

支部長 中根 孫一 大13專 法 弁護士

(副) 松広 壽衛 昭3專 商 日本フオノモーター会社

幹事長 河田 恒次 昭9大 経 愛知県メリヤス工業協同組合事務理事

三重支部 (津市丸の内本丸一〇八四 電車 一〇五一) 電津 一〇五一

支部長 小川 成雄 大11專 商 公認会計士

名張支部 (名張市鍛冶町 東洋木工合資会社内) 電名張 五一

支部長 井上 伸治 大14專 経 東洋木工合資会社社長

(副) 永田 清治郎 昭7大 経 永田工業KK社長

(同) 広沢政太郎 昭10專 法 司法書士

鳥取支部 (鳥取市西町六三 興沢澄方) 電鳥取 三七四七

支部長 興沢 澄 昭8大 経 税理士、計理士

(副) 赤島 宏一 昭21大 経 倉吉農業高校

(同) 寛沢 竜吉 昭3專 法 米子鉄道管理局公安課長

(同) 橋本登一郎 昭16專 商 鳥取西高校

岡山支部 (岡山市津島福居三三 神崎伝次郎方) 電岡山六〇六

支部長 神崎 伝次郎 昭42專 法 岡山商工会議所理事長

(副) 井上 守三 大8專 法 弁護士

幹事長 平尾 利雄 昭11大 政 呉服商

広島支部 (広島市幟町二三三 今西貞夫方) 電広島 三七六二

支部長 今西 貞夫 推 薦 弁護士

(副) 梅田 鶴吉 大12專 法 弁護士

呉支部 (呉市古川町五一 清水篤夫方) 電呉 三五九八

支部長 鶴尾 登雄 昭7大 法 弁護士

(副) 下原 太郎 昭15大 法 呉リッツ劇場

備後支部 (尾道市西町所町海岸通一 糸崎海運商會 河合衛一方) 電尾道 一六〇〇

支部長 河合 衛一 昭2專 商 糸崎海運商會取締役社長

関門支部 (下関市豊町 岡本勲治方) 電下関 八〇九

支部長 岡本 勲治 明38專 法 弁護士

島根支部 (松江市石橋町三九三 森山時雄方) 電松江 二二六五

支部長 岩田 維保 昭11大 法 島根県會議員

(副) 森山 時雄 昭13大 法 島根県醤油工業協理理事長

(同) 広兼 重郎 昭8大 経 浜田信用金庫

徳島支部 (徳島市大道町二丁目 齋藤正美方) 電徳島 九二九

支部長 三宅 一郎 大15大 商 近畿広告KK徳島支店

(副) 小寺善一郎 昭7大 経 森永乳業KK徳島乳工場

(同) 黒田 健勝 昭5專 商

(同) 齋藤 正美 昭11專 商 乾物問屋

幹事長 有本 直弘 昭16專 経 金物業

香川支部 (高松市旅籠町五五 恩有会館内) 電高松 二五八一

支部長 藤下 益治 昭3大 法 弁護士

(副) 馬場 五男 昭10大 法 弁護士

(同) 福岡 良雄 昭10專 法 坂出市役所

高知支部 (高知市升形七の一 岡内滯一方) 電高知 一二四一

支部長 岡内 滯一 大10專 法 高知相互銀行頭取

(副) 井上 和夫 大14專 商 高知地方裁判所判事

福岡支部 (福岡県筑紫郡 日市町武蔵五〇八 清原俊之助方) 電日市 四〇五

支部長 清原俊之助 大14專 法 清泉閣経営

佐賀支部 (佐賀市神野町三五八 平川徳雄方) 電佐賀 四二二三

支部長 永石 光雄 大11專 法 弁護士

(副) 平川 徳雄 大12專 法 商業興信所佐賀支店長

熊本支部 (熊本市花畑町三 内田義信方) 電熊本 一四六七

支部長 内田 義信 昭6專 商 玉屋藥器店代表社員

(副) 小泉 博 昭7大 法 日本生命支社長

長崎支部 (長崎市城山町平和通八号長崎日日新聞) 電長崎四〇〇〇

支部長 篠原 公生 昭12專 経 長崎日日新聞渉外部長

(副) 田浦 末広 昭20大 経 化粧品衣料品商

(同) 田口 誠 昭16專 商 アトム電機有限会社社長

大分支部 (別府市稲湯通七二五〇 野田博方) 電別府 二五〇〇

支部長 野田 博 大2專 商 運動具店

(副) 子浦 淳美 昭4大 法 上野丘高校

(同) 西村 正英 昭14大 法 トキワ百貨店

宮崎支部 (宮崎市富田町二丁目一〇三 西家宇平方) 電宮崎 二二六六

支部長 西家 宇平 大11專 法

(副) 稲倉 恒秀 大10專 商 日向興業銀行金庫課長

鹿児島支部 (鹿児島市草牟田町四六九 三興商事株式會社内) 電鹿児島 二二六六

支部長代理 宮原 一 昭7專 商 三興商事KK社長

職 域 会

名 称	連 絡 先	電話番号
大阪商工大会	北区若松町高裁事務局	長谷川秀雄 北 二二六
大阪地裁関大会	北区若松町大阪地裁判事	竹沢喜代治 北 二二六
大阪地検関大会	北区若松町地検庶務課	北田 利男 北 三五
大阪国税局秀議会	東区杉山町一国税局	黒井 肇 東 五三
大阪郵政局関大会	東区京橋三丁目大阪郵政局人事課	井上 竜男 東 五三
農林省大阪食糧事務所関大会	南区安堂寺橋通三ノ一五	伊達 重雄 船場 六三九
大阪府庁秀議会	東区大手前之町大阪府人事委員会事務局	寒川 喜一 東 三三
兵庫県庁秀議会	神戸市生田区山手通五ノ一	星野 正身 元町三三
神戸市役所関大会	兵庫県商工部商業貿易課	山本 鎮郎 湊川二三
西宮市役所関大会	西宮市六法寺町	古林 正久 西宮六三
吹田市役所関大会	吹田市中泉町	川喜田寛一郎 吹田三三七
大阪府下教員会	東淀川区豊里町九五〇	戸川 一雄 吹田二四三
山陽電鉄関大会	神戸市長田区御屋敷通三ノ二	大國 正己 須磨九
北浜関大クラブ	東区北浜二ノ四六	小寺 茂 北浜六四
法曹千里会	東区北浜二ノ八七	榎本 信雄 北浜四六
関大近畿計理士会	北区鳴尾町一〇	長柄 金吾 堀川三六
大阪機械窓窓会	西淀川区佃町二ノ八	東 正澄 淀川二三
朝日関大会	北区中之島三	弘末 正彦 北浜二三
毎日関大会	北区堂島北四一	林 信夫 福島三三
鐘 秀 会	都島区友淵町二三	榎木 好一 堀川三三
十合百貨店関大会	南区心斎橋	木原 繁実 南 一五二

同 期 生 会

同 期 生 会			
名 称	卒業年	連 絡 先	電話番号
関大三七会	明三七	八尾市今井三・七・村尾静明	堀川 二四
関四三 会	明四三	菅屋市山手町一〇〇ノ一 下条小野右衛門	堀川八〇五
正二 会	大二	南区西清水町二二 大丸西別館二階・中村公男	南 三〇六
大三 会	大三	東区今橋二ノ一六・(株) 松重電機店内・松本芳太郎	北浜 四六九
大四 会	大四	布施市小坂八・一四 塚本方次郎	布施 八六六
六 会	六	北區北崎町四六 横田長次郎	豐崎 七六
甲子 会	大二三	布施市荒川二ノ六〇 広実郁雄	布施 二八四
十三(会)専門部	大三	東区大手前之町大阪府会 議事課・堀川勇	東 三三一
十四 会	大四	北區網走町大江ビル三階 岸田駒太郎	堀川 九三六
一五 会	大四五	吹田市千里山四九二 神保敏男	堀川 三六六
一五法会(専門部)	大五	住吉区帝塚山中三ノ一六 真鍋竹治郎	住吉 二六七
千里山昭三(会)学部	昭三	東成区中本町一ノ四五 樫本信雄	東 三三六
昭三(会)専門部	昭三	天王寺区真法院町九・南清天王寺二四八 北區堂島北町二〇・藤田ヒ	堀川 三三三
尚志(会)学部	昭四	北區千鶴ニヤノール工業K K内・加来秀介	北 一九六
斯文(会)専文)	昭六	関西大学天六学舎校友課 安井章吾	堀川 三三三
昭六 会	昭六	北区若松町五・上野信彦 堀川七三七	堀川 七三七
昭七 会	昭七	東区北浜二丁目北浜ビル 七眷原太郎	北浜 四四六
昭八 会	昭八	吹田市里水町六二〇 八井三朗	堀川 三三三
祥久 会	昭九	東区北浜一ノ三・平和ビル 河内兼三	北浜 六三六
甲戌クラブ(専門部)	昭九	東区大手前之町大阪府知事 室大義課・藤田令九	東 三三一
桃 源 会	昭一〇	北区曾根橋新地一ノ三二 津田弘	福島 二五〇
千里山十二会	昭一二	北区鳴尾町一〇・長柄金吾 南区穀谷仲之町三五・日本	堀川 二九八
五十経会(専三経)	昭一三	生命心斎橋支部・平沢慶一 東区京橋三ノ五一	南 三三三
友粹(会)専三商	昭一三	森田文一郎	東 七三三
春秋(会)学部	昭一四	大阪府南区安堂寺橋通一の 四四・保井金蔵K内	本町 四七二
双竜(会)専門部	昭一四	枚方市諸八四・阪本竜夫	枚方 五五五
桃源(会)学部	昭一五	尼崎市神田中町六ノ三 岩本公夫	尼崎 三三七
喜楽(会)専門部	昭一五	北區中之島一ノ八・帝國座 業K K黄麻課・山崎哲英	北浜 四三二
十一(会)専門部二部	昭一五	北區梅ヶ枝町一八七 松下忠由	堀川 六〇〇
十六 会	昭一六	関西大学天六学舎秘書課 田中郎	堀川 三三三
十八 会	昭一八	関西大学千里山学舎法学部 教授室・松田登	吹田 二三三
十九学(会)専門部	昭一九	北區梅田町日本通運大阪支 店経理課・北川基太郎	福島 一九三
関友会(専門部)	昭二〇	旭区千林町三ノ九〇 寺西武	城東西五会
一燈(会)専三経	昭二三	東区北浜一時事通信大阪支 店・谷口吉信	北浜 六四四
二六 会	昭四	旭区千林町三ノ九〇 寺西武	城東西五会
一期(会)短大)	昭七	東区内本町東詰大阪府立商 工経済研究所・木村吉郎	東 六八八
草の葉会	昭七	東区平野町・平野町郵便局 天正春男	北浜 三三〇

謝 辞

去る昭和二十八年十一月より關西大學創立七十年周年記念
 拡充資金募集に付御寄附を御願申上げました処、各位には
 其の趣旨に深き御理解を御示し戴き、御蔭を以て所期の拡
 充計画がとどこほりなく完成致しました、此処に謹んで御
 礼申上げます。

尚本事業完成に就ては(自昭和二十二年十月)
 (至昭和二十三年六月)の間に募集致
 しました關西大學擴張及び校友会館建設資金の御寄附者並
 びに昭和二十五年十一月以来、本大學拡充資金の寄附保険
 に御契約下さいました各位の御力に負ふ所も大なるものが
 あるのでありまして改めて深甚の謝意を表する次第であり
 ます。

御援助により完成されました拡充五ヶ年計画完成表を下
 の通り御高覧に供しますと共に、併せて今後の学園発展に
 も倍旧の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

追而 御寄附は本年度末まで引続き拝受致しております。

關西大學學長 岩崎 卯一
 關西大學理事長 白川 朋吉

關西大學拡充五ヶ年計画完成表 (昭和三十年十月現在)

建 物 名 称	起工 年月	完成 年月	建 坪	延 坪	構 造
大學ホール並に研究室新築	昭和二十二年十月	昭和二十三年六月	二、四〇〇	四、五〇〇	鉄筋コンクリート造
第一学舎第一期新築工事	昭和二十二年十月	昭和二十三年六月	一、六〇〇	四、七〇〇	瓦葺二階建
第二期 "	昭和二十三年七月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	三階建
第三期 "	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	鉄骨鉄筋コンクリート造
図書館増築工事	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	三階建、一部四階
第二学舎第一期増築工事	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	二階建、一部中二階
第一高等学校新築工事	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	三階建、庫六階建
講堂	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	二階建
理科教室	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	三階建、瓦葺
附属食堂	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	鉄骨造平屋建、瓦葺
尚志館第一期増築	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	木造瓦葺平家建
第二期 "	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	木造二階建、瓦葺
西研究室改造工事	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	木造瓦葺二階建
秀麗寮第一期工事	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	平屋建
第二期 "	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	"
第三期 "	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	木造瓦葺一階建
幼稚園々舎増改築	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	木造瓦葺平屋建
天六学舎増築工事	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	鉄筋コンクリート造
合 計	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	二、四〇〇	六、五〇〇	地上四階、地下一階建
千里山学舎内道路舗装	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	通路アスファルト
植林	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	建物前部コンクリート
造園	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	桜百本、紅葉三十本
	昭和二十三年十月	昭和二十三年十月	一、三〇〇	一、三〇〇	芝張り植樹、開墾樹木移植